

小学6年1組 家庭科学習指導案

指導者 竹吉 昭人

1 題材名 自分の生活にピッタリ！手作り整とんグッズで快適に過ごそう

2 題材のねらい

自分の生活をふり返り、生活の課題に応じた手作り整とんグッズを作ることで、整理整頓の仕方の工夫を見いだしたり、主体的に身の回りを快適に整えたりしようとする態度を育む。

3 授業の構想

(1) 以下に示すのは、「季節に合わせた快適な過ごし方を考えよう」の題材の中で、夏の過ごし方について、よしずやすだれ、風鈴などの効果を実際に教室で体感したり、詳しく調べたりする中で、実生活にどのように活かしていくか考えた授業後のふりかえりである。

これまで暑くなったらエアコンやせん風機にたよっていたけど、すだれでもかなりすずしくなるし、風りんは、体感温度を2～3度下げてすずしく感じることができることが分かりました。自分の家はマンションで、グリーンカーテンは大変だから、風りんはそんなに高くないし、自分にもできそうなので、やってみたいと思いました。(児童A)

本学校園技術・家庭科部では、子どもたち一人一人がよりよい生活を目指して工夫し創造する姿を目指して、「課題を多面的にとらえ、身に付けた知識や技能を活用する力」を身に付けさせたい資質・能力の中心として捉え、授業実践をしている。児童Aのふりかえりでは、夏の快適な過ごし方についてエアコンなどの冷房機器の活用だけでなく、すだれや風鈴などでも電気代を節約しながら暑さがしのげることなど、多面的なとらえ方ができている。学習したことを活かし、自分の家に風鈴を付けてみようといったような、自らが主体となって実生活に生かしていこうとする姿を目指していきたいと考えている。

本題材では、「住まい方に関心をもって、整理・整頓や清掃の仕方が分かり工夫できること」について、特に整理整頓について取り上げ、意識や実践の幅を広げたい。子どもたちにとって、整理整頓は生活の中の身近な課題であり、且つ、家庭生活に主体的に関わる手段として有効である。本題材では自分の生活の課題に応じた整理整頓グッズを製作する。文房具や書類、小物などを整頓するための物は身の回りにも数多く存在する。安価で便利な物もたくさんあるが、形や大きさ、デザインなど自分の目的と全てが合致するものに出会うのは意外と困難である。グッズの目的や使う場所などに応じて形や大きさ、色や柄など工夫することを通して、整理整頓に対する意識や、日常生活での実践の幅を広げていきたい。さらには、製作の過程において、目的に応じたグッズを製作するための素材と丈夫さの関係について気付くことにより、生活をよりよくするための多面的な視点に触れることができる。この気付きは、今後、既製品を購入する際にも、自分の目的により合致した物を選ぶための大切な視点である。身近な生活の中で整理整頓に役立つ物を作ることは、調理や裁縫と同様に、実生活につながる製作活動の一つになるのではないかと考える。さらに、中学校技術の“材料と加工”につながる要素を引き出すことも可能でだと考える。小・中学校の技術・家庭科としての具体的な学習内容の連携としても提案していきたい。

(2) 本題材を通して、技術・家庭科で目指す資質・能力を身に付けるために、以下の点を大切にしながら授業を展開する。

○主体的な追求をするための土台作り

～生活を見つめ直し、日常生活の中から「課題」「願い」「問い」を見いだしていく～

まずは、日々の自分自身の生活の中から、整理整頓に対する「課題」をしっかりと引き出していきたい。具体的にどの場面でどのような物に対して整理整頓の課題があるのか、どのようなグッズがあると生活がより快適になるかなど、個人、小グループ、学級全体で考える時間を設定しながら明らかにしていきたい。一人一人の「課題」が明確になることで、「～のために〇〇を作りたい！」という「願い」が生まれ、どうしたら便利なグッズが作れるか「問い」をもつことができる。整理整頓に対する追求の土台を作っていきたい。

○多面的な見方・考え方の視点を明確にする

グッズの製作に当たっては、まず、その形や大きさについて考えることが第一の課題となる。実際に整理整頓したい物を持って来たり、その大きさを測ってきたりすること、実際に使う場所や場面も考慮しながら考えたり、試し作りをしたりしながら考えていきたい。完成に向けて、多面的な視点として、素材と丈夫さの関係に着目していきたい。使用に耐えうる丈夫さがあるかどうかは、物の良し悪しを判断するための大切な要素となり、使い勝手の良さにもつながる。主な素材として厚さの異なる紙を用意する。自分の目的に合わせて丈夫さを考慮しながら紙の厚さを選んでいきたい。また、紙の厚さと加工のしやすさの関係や、接着部分に工夫することで丈夫さが変わることなどの気付きを整理しながら、製作につなげていく。そうすることで、よりよい物を作ろうとするともに、中学校技術の材料と加工内容との関連として、素材の違いで丈夫さが変わること、それが生活とどのように関係していくかといった視点の窓口になるのではと考える。

○教師のはたらきかけ

本題材を展開するにあたっては、子どもたちの問いや考え、多面的な視点を広げるための「提案する」はたらきかけや、深めるための「掘り下げる」はたらきかけを適宜積極的に行っていきたい。特に、本時においては、子どもたちの目的に応じたグッズになりそうかどうかという点について、形や大きさはそれでよいか、実際の製作をイメージして、丈夫に作るためには紙の厚さや接着部分についてどうすればよいかなど、問い返ししながら子どもたちの思考を掘り下げ、追求への手立てとしていく。

4 展開計画（全6時間 本時4／6）

次	時	主な学習内容	◇願う子どもの姿
1	1 2	○自分の生活の中の整理整頓の課題を見つける。 ○個々の課題に応じた整理整頓グッズの計画を立てる。	◇自らの生活を振り返り、整理整頓の課題を積極的に見いだそうとする姿 ◇自分の課題に応じたグッズの製作計画を立てる姿
2	3 ④ 5・6 課外	○グッズの試し作りをする。 ○試し作りを通して気付いたことをまとめる。 ○前時までには気付いたことを活かして、製作をする。 ○実際に使ってみた感想をまとめる。	◇製作のポイントの形・大きさ・丈夫さを見いだしながら試し作りをする姿 ◇試し作りから、形や大きさ、丈夫さについて気付いたことや課題を出し合い製作につなげようとする姿 ◇グッズを製作したり、実際に用いたりした感想をまとめることで、成果や課題を見いだし、学習したことをこれからの生活に役立てていこうとする姿

5 本時の学習

(1) ねらい

試し作りを通して出た課題から、次時からの製作に向けて自分の目的に応じた物ができるように、丈夫さについて検討しながら具体的な作り方を考えることができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組	教師の支援と願い・評価
<p>1. 製作に向けた課題を出し合う。</p> <p>○製作のポイントを学級全体で確認する。</p> <p>○グループでポイントを踏まえて試作品を見合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見た目や大きさはよさそうだ。 ・どのような紙を使うと丈夫になるかな。 ・実際に接着の仕方はどうすればいいかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までを振り返りながら、製作のポイントとして、形・大きさ・丈夫さを共有し、製作の視点を確認していく。 ・自分が作った試作品をグループごとに見合うことで、製作に向けた課題を見いだせるようにする。 ・完成や実際の製作の過程をイメージしながら、丈夫さに焦点を当て、本時のめあてを共有する。
<p>目的にあった丈夫さになるように、材料や作り方を考えよう</p>	
<p>2. 身の周りにあるお菓子の箱や既製品の整理整頓グッズなどを観察しながらどうしたら丈夫になるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重たいものを入れるために、厚い紙を使って丈夫にしているぞ。 ・箱の底にもう一枚厚紙が引いてあるぞ。 ・のりしろの幅の違いで丈夫さも変わっているぞ。 ・外から布や紙がかぶせてあって、更に丈夫になっているぞ。 ・どこを切って組み立て接着するかも重要そうだ。 <p>3. 自分が作ろうとしている物にどう活かしていくか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重たいものを入れるので厚めの紙を使おう。 ・底が抜けないように、側面で接着できるようにしよう。 ・円柱型のペン立てを作るので、厚い紙だと曲げづらいので薄めの紙にしよう。だけど、丈夫にしたいので、それを二重にしてみよう。 <p>4. 本時をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試作品を作って形や大きさのイメージができて、身の回りのある箱を観察することで、実際に作る時のイメージがふくらんだ。 ・どのような物を入れるときに、どのぐらいの厚さの紙を使えばよいか考えることができた。また、紙が厚くなると切ったり折ったりしづらいので、のりしろや紙を重ねてはることで丈夫さを保つこともできるので、製作につなげたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・整理整頓グッズを製作するために、ヒントになり得そうな身の回りのお菓子の箱や容器、既製品の整理整頓グッズなどを実際に用意し、観察できるようにする。素材や丈夫さの視点について注目できるように、子どもたちの観察の気付きに対して、掘り下げたり問い返したりしてはたらきかける。 ・試作品と観察で用いた身の周りの物とをつなげて考えられるように、試行錯誤できるように物的な環境を整える。また、グループやペアでの活動も認めることでお互いにアドバイスし合うことでよりよい工夫が見いだせるようにする。 ・一人一人が製作に向けて具体的なイメージが膨らむように、素材と丈夫さについての工夫を確認しながら学級全体で振り返るようにする。 <div data-bbox="826 1823 1417 2018" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価の観点（生活を創意工夫する能力）】</p> <p>目的に応じたグッズになるように、丈夫さを考えながら適した紙の厚さや接着の仕方など具体的な作り方を考えたりしている。</p> <p style="text-align: right;">【評価方法 ワークシート】</p> </div>